ZENSO

全奏協通信

NPO法人全国邦楽合奏協会（全奏協）

2012年度
第2号
全奏協機関誌
2013.3.30発行

特集　第27回国民文化祭・とくしま2012　全国邦楽合奏フェスティバル

全国邦楽合奏フェスティバル

ぐるーぷ”樹”が最優秀

平成24年9月14、15、16日徳島県阿南市文化会館夢ホールで第27回国民文化祭・とくしま2012　邦楽への招待　和の元気！　未来邦楽へ「全国邦楽合奏フェスティバル」が開催された。このイベントは平成23年に誕生した全国邦楽合奏協会の誕生公演ともなった。5つのワークショップ、プロの演奏家の演奏会を含む5つの演奏会、2つの講演、そして4つの展示と盛りだくさんの企画だ。15名を越えるゲストと全国から参加した24を越える邦楽合奏団が参加した。なによりも地元、徳島県三曲協会を中心とする約180名のボランティアスタッフに支えられたことがこのイベントが大成功に終わった要因といえるだろう。

その様子を特集で紹介する（2ー4ページに特集記事）。

全国邦楽合奏フェスティバル全国邦楽合奏協会誕生公演の開幕曲「童夢」（山上明山氏指揮）の演奏　2012年9月16日　阿南市文化会館夢ホールで

第1回シニア邦楽コンクール

第1回シニア邦楽コンクールでの記念写真

1位は独奏部門で阪本佐智子さん　合奏部門は今村里美さん、武谷光代さん　波部志津子さんに

2012年7月14日（土）に大阪市の阿倍野区民センター小ホールを舞台に、第1回シニア邦楽コンクール近畿大会を開催しました。全国各地で邦楽コンクールが開催されるようになったとはいえ、シニア世代が活躍できるコンクールはほとんどありません。そこでシニア世代に向けたコンクールを開催し、シニア世代の力を示し邦楽界をより活発にという趣旨で開催した次第です（5ページへ）。

総会

平成２４年度総会大阪で開催

平成24年6月10日に総会が大阪市九条の田波楽器会議室で開かれた。NPO法人化後初めての総会となった。

事業報告のあと、平成24年度の事業計画、活動予算、平成23年度活動報告、活動決算などが審議され活発な意見がでた。その中で、全国邦楽合奏フェスティバルについて、全奏協立ち上げ後、初めての大きなイベントになるので、全員で協力して成功させるように頑張ることが確認され、全ての議案が満場一致で可決された。

総会後は懇親会で盛り上がった。

写真　満場一致で平成24年度総会議案すべてが可決された

～2013年度総会は6月1日東京開催～

主な記事

2～4ページ　全国邦楽合奏フェスティバル
5ページ　第1回全国シニア邦楽コンクール
6ページ　理事長ごあいさつ・第2回全国邦楽合奏フェスティバル（概要案）

PAを使用する邦楽ワークショップ

遠TONE音が邦楽での音響利用を実演

9月15日　遠TONE音による交流質問会

9月14日18時半から阿南市「夢ホール」で、遠音によるワークショップとミニコンサートが開かれた。その中で地元音響スタッフの協力も得て、PAなしの場合とPAを使った場合の比較実験演奏が行われた。講師の三塚幸彦氏は、なぜ、PAを必要とするのかとの問いに対して、「邦楽器ではPAなしでは150人くらいのホールが限界、邦楽器演奏者が、ホール隅々までその音を届けようとすると大音量で演奏するテクニックが必要となるがその分微妙なニュアンスが失われることがしばしばある。現代はデジタル音響技術が発展しているので、その技術を使わない手はない」と答える。

確かに、生音と機械を通した音とでは、音質に違いが出るが、「遠音」の演奏は聴衆に無理のない、心地よい「ニュアンス」を届けるためにPAを使っている。

筆者はPA実験を、最前列で聞いた。生音での演奏では細かいニュアンスが聞き取りにくかったものの十分に音楽の「意図」は伝わると感じたが、PAを通して聞くとさらに細かい部分の表現が聞き取れた。また、広いホールでは生音の場合、聴衆側が聞き取ろうという「努力」が必要となるため、緊張感はあるが疲れる。PAを使った場合、ゆったりと聞き取れ癒されたと感じた。この様な点でPAの優位性を確信した。今後、邦楽演奏の現場でPAはさらに利用されるのではないかと思う（れんかい）。

箏マエストロWSと響演「変絃自在」

2012年9月16日　全国邦楽合奏協会誕生公演で三つのフェスタルバラード（三木稔作曲）を演奏する愛媛県立野村高等学校箏曲部（阿南市夢ホール）

私たちは徳島県阿南市で開催された全国邦楽合奏フェスティバルに参加しました。箏奏者の野坂操壽・沢井一恵の両先生の演奏や全国から選ばれた邦楽合奏団体20組が集結したこの大会で、多くの貴重な経験ができました。

15日の『変絃自在』では両先生に加え徳島県内の高校生、大学生と共演しました。初めて「二つの群の為に」の楽譜を見た時には、この曲を演奏できるのかと不安になるほど難しい曲でしたが部員全員が夏休みを返上して研究・練習しました。当日は数時間の練習を行い、リハーサル後本番を迎えました。ステージでは、両先生のすばらしい技術とオーラを目の当たりにし、感動しながら演奏することができました。

16日の『全国邦楽合奏協会誕生公演』では、私たちにとって特に思い入れのある曲「三つのフェスタルバラード」を演奏しました。トップバッターということもあり、とても緊張しましたが、今まで演奏した中で一番の出来だったと思います。演奏後に観客の方や他の出演者の方にたくさんのお褒めの言葉をいただき、とてもうれしく思いました。また、全国邦楽合奏協会賞を受賞することができ、二重の喜びとなり、充実した二日間を過ごすことができました。このような機会を与えていただいたこと、また、恵まれた環境の中で箏を演奏できること、たくさんの方々に支えられていることに感謝し、私たちの演奏を聞いてくださる方に感動してもらえるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

愛媛県立野村高等学校
箏曲部顧問　村上　由理

15日（土）19時からは野坂操壽・沢井一恵の両氏による「変絃自在」コンサートが開かれた。ワークショップで指導をうけた徳島県、愛媛県の中高生も舞台に立った。また、若手尺八演奏者の「古典本曲」も演奏された。

沢井一恵氏が十七絃の重低音による「六段」を奏でて、演奏会は始まった。箏の世界ではよく、唄物では黒髪に始まり黒髪に終わると言われ、手事物は六段に始まり六段に終わるとも言われる。「基礎基本を大事にしなさいよ」という、若い人へメッセージにも聞こえた。

二曲目は「ゴジラ」で有名な伊福部昭が二十絃箏のために作曲した「物云舞」だ。二十五絃箏開発者でもある野坂操壽氏が演奏主題でもある「典雅」を気品に満ちた演奏で聴かせた。

後半は、中高生との演奏だ。中空砧による箏変奏曲ー五段砧の変容（高橋久美子作曲）は徳島県内の中学生が、難曲の「二つの群の為に」（沢井忠夫作曲）は徳島、愛媛の高校生が中心となり夏休みを返上して練習した成果を披露した。演奏会に先だって、ワークショップが同ホールで行われ両氏の指導でさらに磨きがかかり本番となった。

この演奏会ではもう一つの注目点がある。上記、高橋久美子氏の他、「変絃自在」公募作品入賞者で「青蓮華」を作曲した前田智子氏など、伊福部昭氏、沢井忠夫氏そして三木稔氏に続く現代邦楽作曲者の作品が世に出て来ていることだ。

今回の企画では、どの様な形で『邦楽』が次の世代に受け渡されるのか、その外観がうっすらとだが見えかくれしたように感じた（れんかい）。

邦楽合奏フェスティバルメインイベント

最優秀賞にあたる徳島県知事賞を受賞した和楽器集団ぐるーぷ“樹”の重政昴山氏から感想を寄稿いただいたので紹介する。なお、第2位優秀賞にあたる阿南市長賞は「織座」&「まどか」（千葉）、3位全奏協賞は愛媛県立野村高等学校箏曲部が受賞した。

2012年はぐるーぷ“樹”にとって最高に充実した思い出に残る年となりました。

一つ目は、昨年6月に広島で開催したコンサートです。これはぐるーぷ“樹”結成40周年（第36回）という大きな節目となるもので、これまでにぐるーぷ“樹”が委嘱した曲を中心に多くの方に楽しんでいただきました。

二つ目は、徳島で開催された全国邦楽合奏フェスティバルで最優秀賞となる「徳島県知事賞」を頂いたことです。実は徳島に行くまでは、「トップ3くらいには入りたいねえ？」なんて呑気に構えていたのですが、前日のワークショップでの徳島邦楽集団の演奏を聞いて、そのまとまりの良さに大いにショックを受けた後は誰も何も言わなくなってしまいました。でも、それでスイッチが入ったのか、その後のパート毎の細かいチェックと全員の集中が効いたのか、本番ではこれまでにない手応えのある演奏ができました。全国から結集した実力者揃いの合奏団の中から、豪華な顔ぶれの審査員の方に選んでいただき本当に本当に光栄です。

最優秀なんて恐れ多いというのが今でもメンバーの正直な気持ちですが広島という地方にこんなグループがあるということを知っていただいただけでも私たちのこれからの活動の何よりの励みになると思っています。

このようなすばらしい機会を与えてくださった全奏協と全ての関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。そして、今年が全奏協にとって更なる飛躍の年になるよう、みんなで力をあわせていきましょう（重政昴山）。

最終日の懇親会で受賞の喜びを語る、和楽器集団ぐるーぷ“樹”（広島）代表の山本観山氏

地元紙に掲載

翌日の9月17日付け地元紙、徳島新聞に邦楽合奏フェスティバルの記事がが掲載された。写真は巨火の演奏。

9月16日和楽器オーケストラ邦楽合奏団「鼎」（指揮　星田一山氏）が演奏する「綺羅KILA」（前田智子作曲）徳島国文祭バージョンの演奏

展示・シンポジウムも充実

写真右　徳島県出身で全奏協設立に尽力された作曲家の故三木稔先生の代表的な作品群を紹介したコーナー。

写真下　箏作成の実演。初めて見る箏制作の様子に質問する参加者。他に鼓、三味線の製作の様子が実演された。また、箏の柄の尺八や箏の源流となった七弦の古箏も展示された。遊びながら、楽しみながら学べる展示となっていた。

写真右　展示された宇宙箏に興味津々の中学生。さわって音を出すこともできる。

宇宙箏・楽器製作実演
故三木稔先生の軌跡など
盛りだくさん

写真右　「未来邦楽へ」と題するパネルディスカッション。6名のパネリストが未来を見通した。特に韓国の邦楽（国楽）の現状も報告され、日韓の伝統音楽の現状や問題点も提起された。

写真右　指揮者の稲田康氏により徳島邦楽集団が今回演奏予定の三木稔作曲ダンス・コンセルタントⅠ＜四季＞の演奏指導がなされた。邦楽演奏では珍しい指揮の実際が間近で見ることができること　もあり多くの参観者が集まった。

全国邦楽合奏フェスティバルこぼれ話

９月１６日懇親会で阿波よしこのを演奏するスタッフと飛び込み参加で演奏する高橋明邦氏、石川憲弘氏、そして、阿波踊をおどる参加者。

阿波踊りのリズムで

９月16日　全国邦楽合奏フェスティバル懇親会が阿南市夢ホール近くのロイヤルガーデンホテルで開かれた。約４００人の参加者、スタッフが、立食パーティーを楽しんだ。

まず、各地の合奏団代表者の挨拶とフェスティバルの感想が述べられた。

会食の途中では阿波の正月にかかせない「阿波木偶（でこ）箱回し」の実演と解説があった。その実演では一斉に頭（かしら）の使いかたを観察、浄瑠璃節に聞きいっているところはさすが邦楽人だ。

第２７回国民文化祭徳島県実行委員会委員長の徳島県知事飯泉嘉門氏が歓迎の挨拶をした。その後も各テーブルすべてを回り徳島県のアピールを忘れない。

全国邦楽合奏フェスティバル懇親会で、挨拶をする、第２７回国民文化祭徳島県実行委員会委員長の飯泉嘉門徳島県知事

最後は、参加者すべてが阿波踊りを踊った。地方（じかた）の演奏ステージには、打楽器が専門で全国邦楽合奏フェスティバルの取りの曲、「巨火」を指揮した高橋明邦氏、箏の石川憲弘氏らが飛び入りで阿波よしこののリズムを奏でていた。

参加者の笑顔が本フェスティバルの大成功を物語っている（れんかい）。

野坂操壽・沢井一恵の両氏を韓国誌が取材

９月１５日（土）、野坂操壽、沢井一恵の両氏による「変絃自在コンサート」終了後の懇親会会場で、両氏は韓国の国楽誌Lara（ララ）の取材をうけた。急遽この取材をコーディネートしたのは全奏協理事の田中隆文氏だ。懇親会会場の一角が急ごしらえのインタビュー会場となった。　国楽とは日本の邦楽にあたる韓国での呼び方で、「Lara」はちょうど我が国の邦楽ジャーナル誌の様な雑誌だ。同誌のユ・チュンホ編集長は韓国の伝統音楽と他のジャンルそして外国の音楽等との比較研究をしている。氏はこの日行われた「未来邦楽へ」パネルディスカッションで韓国では国楽へ国の補助金は比較的多いものの実績のある演奏者に偏り、若手国楽人には回らないという実態を訴えた。現在、邦楽ジャーナル誌にも「韓国国楽だより」と題して連載を持つアラフォーだ（れんかい）。

９月１５日　変絃自在コンサート終了後に韓国国楽誌Lara編集長（右から２番目）の取材をうける野坂操壽氏と沢井一恵氏（左）

すべての企画が素晴らしかった

藤本さん、スタッフの皆様お疲れ様でした。徳島での国文祭は非常に充実した内容で全ての企画がすばらしかったです。全国各地からの参加者で大合奏曲を出来たのも良かったです。「童夢」はともかく、「巨火」はプロの演奏団体でもなかなかの難曲ですが、当日のわずかな練習時間だけで、少なくともお客様に聴いていただける形になったのは、指揮の高橋先生をはじめ皆様のお力の賜物だと思います。今回は国民文化祭の事業として、文化庁などから多大な協力がありましたが、今後全奏協のみでこのようなフェスティバルを実施して行くのは大変だと思います。少しでも、自治体、財団、企業のご協力をあおぎながら、たとえ小さな規模でも良いので毎年続けて行けたら良いと思います。今年は山梨県で国民文化祭が開催されます。山梨邦楽合奏団「響鳴」も協賛事業として、５月５日に、子供たちのバレエや児童コーラスなどとコラボして演奏会を開きます。全国各地からのお越しを希望いたします。

（石川憲弘）

高橋明邦氏指揮による「巨火」のリハーサル風景
（9月16日午前　阿南市夢ホール）

全国シニア邦楽コンクール

（１ページから）

☆１８組が熱演

梅雨の終わりの大雨が心配されましたが、当日は独奏・合奏あわせて18組の演奏者が参加され、水を打ったような会場内の静けさの中、午前11時からコンクールが始まりました。独奏の部、午後からは合奏の部と続き、午後3時まで18組の熱演が繰り広げられました。休憩の後、審査員のお一人である倉橋容堂氏の模範尺八演奏があり、その後審査員7名による審査が行われました。倉橋容堂氏、島田重弘氏、星田一山氏、吉岡紘子氏という名演奏家と作曲家の前田智子氏、そこに全奏協から理事長の藤本玲氏、理事の田中隆文氏が加わって、7名による慎重な審査が行われました。優れた演奏が多く審査は難航しましたが、独奏部門では吉崎克彦作曲の十七絃独奏曲「スペイン風即興曲」を演奏された阪本佐智子さん、合奏部門では江戸信吾作曲の三重奏曲「風の舞」を演奏された今村里美さん、式谷光代さん、渡部志津子さんがそれぞれ最優秀1位となって表彰を受けられました。

十七絃独奏「スペイン風即興曲」で1位を獲得した阪本佐智子さん

三重奏曲「風の舞」を演奏し合奏曲部門で1位となった、今村里美さん、式谷光代さん、渡部志津子さん

講評する田中隆文理事（左）と審査員

☆今後の課題も

はじめて開催したコンクールであり広報が上手くいかないところも多くありましたが、今後は、今回出演された方々の声にもありましたが、応募できる年齢層の拡充やより広い地域からの応募など、実施形態を模索しながら今後につなげたいと思います。アンケートの中には「若年者が混じっている」など、年齢に関する不満も散見され、今後の課題として審査方法、表彰のあり方等とあわせて検討すべきと感じています（麻植）。

第２回邦楽コンクール（シニアコンクール改）のお知らせ

日時：平成25年7月28日（日）11：00

場所：阿倍野区民センター小ホール

入場：無料

主催：全奏協

詳細：http://zensokyo.org

ごあいさつ

藤本玲全奏協理事長

桜の便りを聞くこの季節は何ともワクワク楽しい、夢に向かう想いが近くに見えるような幸せな気分になります。皆様におかれましては変わらずお元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、平成24年度は文化庁主催事業第27回国民文化祭「全国邦楽合奏フェスティバル」や、第１回シニアコンクールなど大きな事業がありました。たくさんの皆様にご来場、ご支援をいただきまして心より感謝申し上げます。お陰さまで大盛会のうちに幕を閉じる事が出来ました。本当にありがとうございました。

そして、心地よい余韻が残るなか「第２回全国邦楽合奏フェスティバル」の会場が決定しました。リニューアルされた東京三鷹市公会堂での開催です。日程は2月1日（土）・2日（日）の二日間で、規模は小さくなりますが、昨年同様全国から合奏団やグループの参加を募ります。また、個人の方は合同曲にご参加いただけます。演奏会を中心に合奏ワークショップや新曲紹介コーナー、ポスターセッション等を行います。詳細はこれから実行委員会で詰めていきますので、どうぞ楽しみにして下さい。

また本年7月28日には、コンクールをシニアだけのものとせず、名前改め第2回「邦楽コンクール」としてリニューアルスタートすることとなりました。会場はひき続き大阪市立阿倍野区民センター小ホールです。詳しくはホームページをご覧下さい。

全奏協を立ち上げようと決意してから早2年、ちょうど桜の時期でした。昨年東京王子で見た桜が忘れられません。最高でした！この花に力をもらい平成25年度も頑張ります。皆様よろしくお願いいたします。

（藤本玲）

平成25年度総会の告知

1　開催日時
平成25年6月1日(土)
午後1:30開会

2　開催場所
三鷹市公会堂　三階会議室
東京都三鷹市野崎1丁目1の1
（三鷹市市役所横）

3　今回の総会会場は第2回邦楽合奏フェスティバル会場でもあります。下見も兼ねて多数の参加をお待ちいたします。

写真はさんさん館

第2回フェス、来年2月三鷹で

アマチュア・プロ・地域・流派を越えた市民参加型の邦楽フェスティバル、第２回全国邦楽合奏フェスティバルが平成２６年２月１日（土）、２日（日）に東京の三鷹市公会堂「光のホール」と隣のさんさん館（東京都三鷹市野崎）で開催されることが発表された。

2月１日（土）、多目的室では公開リハが、午後はホールでは2名から5名の邦楽器中心の「でたがりコンサート（仮称）」が、夕刻からは作曲家新曲コンサート、邦楽2010新曲コンサートが行われる。また、合奏ワークショップ、有名指揮者、演奏家によるQ&Aセッションもある。さらに地元物産販売、観光も予定されている。

２月２日（日）、ホールでは18団体と２合同曲で構成される邦楽合奏フェスティバルが開催される。前日に引き続き、展示、物販そして体験コーナーも設ける予定だ。

関連事業として作曲家グループ「邦楽2010」や、大日本家庭音楽会などに協力依頼して、平成24年度に発表された新曲を紹介、情報の少ない新曲合奏曲も紹介するコーナーを設けあわせてCD・楽譜、楽器店による楽器展示販売等の販売を行う。第二にポスターで各参加団体を紹介する。第三に第１回フェスでも行った一般の人たちに和楽器の楽しさを感じてもらう楽器体験コーナーを設置。第四にプロによる表現テクニックを実演も交えて学ぶワークショップ、演奏での悩み相談も実施する。詳細は全奏協ホームページで発表されるのでご覧頂きたい。なお、内容が一部変更される場合もあるでご理解願いたい（れんかい）。

三鷹市公会堂が、本年3月3日リニュアルオープンした。公会堂ホールは耐震補強とホール、ロビーの改修を行い旧別館のあった南側には新しい建物を整備し、安全性や快適さを高めた。

また、公募により公会堂ホール（719席）は「光のホール」と命名、旧別館の建物は三鷹の三（さん）と太陽の（Sunサン）、参加（さんか）者に「さんさん」と光が降り注ぐようにとの願いから「さんさん館」という愛称となった。三鷹市民の文化活動拠点の一つだ（れんかい）。

会員紹介

相澤洋正さんが編・作曲者の立場で賛助会員として入会された。以下に略歴を紹介させていただく。

Hiromasa Aizawa（作曲家）

長野県生まれ。千葉大学教育学部音楽専攻卒業後作曲活動を開始。ピアノ曲や合唱曲、絵本音楽や弦楽アンサンブル作品などを手がける。

特に好きな組み合わせである「ピアノ、バイオリン×2、チェロ」の曲を多く作り、コンサート活動も行っていた。

2010年山中湖国際音楽祭の委嘱作品をきっかけに邦楽器の作品にも積極的に取り組むようになる。

現在は作編曲を中心に幼稚園・保育園などで「絵本とチェロのコンサート」も行う。

http://www.lattrait-music.com

編集後記

人声転合

我が愚妻は水谷豊の「相棒」が大のお気に入りだ。新聞で再放送を見つけ午後３時にテレビをつけた。「相撲」をやっていた▼邦J片手に５円コピー機の前にいた。ミュージシャン風青年が笑顔で近づいてきた。入門希望者か。糠喜びも束の間、青年の笑面は能面となりあさっての方角に去っていった。邦楽違いだったらしい（れんかい）